

グローバル教育に挑む大学

明治大学

主体的な学びで育成する
未来開拓力に優れた人材

「MEIJI8000」によって、スーパーグローバル大学に選定された明治大学。毎年の卒業生 8000人すべてを未来開拓力に優れた人材に育てようという骨太の試みだ。強い「個」の育成を理念に掲げてきた教育の伝統は国際化を迎えた今、その真価を発揮しようとしている。

建学の精神に根差して進む
明治大学のグローバル戦略

2009年、国際化拠点大学（グローバル30＝G30）の採択を受けて、明治大学では国際連携機構と国際連携本部を設置。トップのリーダーシップのもとで、①国際連携の推進に係る企画、②外国の高等教育機関との連携・協定、③海外拠点の整備、④国際的な学術会議等の開催、⑤外国人学識者の招へいおよび受入れ、⑥学部・大学院および教育機関が行う国際連携の推進に係る基盤整備および情報収集、⑦教職員の国際研修という7つの側面から、全学的な国際化に取り組んできた。2010年には、国際連携機構所属の特任教員や客員教員を新たに採用。国際連携推進機構の組織を整備し、G30政策の円滑な遂行に力を入れてきた。

国際交流担当副学長で国際連携本部長を務める勝悦子教授（政治経済学部）は言う。

「G30採択は、本学の国際化推進を加速させるひとつのきっかけではありましたが、しかし明治大学にはもともと、『権利・自由、独立・自治』を建学の精神に掲げてきた歴史と、『個』を伸ばす教育の伝統があります。私たちが現在取り組んでいるグローバル人材育成も、そうした教育理念の延長線上に位置づけられるものです。自らの頭で考え、主体的に学び、行動する、タフでしなやかな『個』を育てることが重要だという認識は、学内で広く共有されていますし、そうした人材の育成は、グローバル化時代において我々に課せられた社会的使命でもあると考えています」

文部科学省の採択を受けた
3つの主要プログラム

学生が、高い専門知識を背景とする論理的

思考力と、人類愛に根差した国際教養を身につけ、体験を通じて異文化理解を深められるよう、明治大学ではさまざまなプログラムを開発してきた。このうちの3件が、文部科学省の国公立大学を通じた大学教育改革の支援プログラムに採択されている。

1. 明治大学グローバル人材育成推進事業
（グローバル人材育成推進事業 特殊型）

明治大学の国際化を牽引する政治経済学部の取り組みで、多様な海外留学プログラムや、実践的英語力強化プログラムなどの展開が目目される。この取り組みを大学全体に広げることで、①強い個、②高い使命感と倫理感、③高い語学能力とコミュニケーション能力、④専門性と実践的な課題発見・解決能力、⑤異文化への鋭い感受性と理解力という5つの特性を有する「グローバル公共人材」の育成拠点を目指す。

2. 「日本 ASEAN リテラシーを重視した
実務型リーダー育成プログラム」
（大学の世界展開力強化事業—ASEAN
諸国大学間との交流形成支援事業—）

日本とASEAN諸国の双方に、「日本ASEAN実務型リーダー」を育成することを目的とするプログラム。ASEAN大学連合加盟校を中心とする大学と連携して、国際共同教育コンソーシアムを形成し、日本人とASEANの学生に、言語、文化、商習慣等の相互理解促進に重点をおいた教育を提供している。

2. 国際機関等との連携による
「国際協力人材」育成プログラム
（大学間連携共同教育推進事業）

明治大学、立教大学、国際大学の3大学による、国際協力人材育成のための共同教育プログラム。国際社会が取り組むべきグローバル・イシューを取り上げ、授業はすべて英語

で進められる。

「MEIJI8000」で
2人に1人の留学を目指す

こうした個別のプログラムは、国際連携機構のイニシアチブによって、全学レベルで取り組みがなされ、「世界へ！MEIJI8000—学生の主体的学びを育み、未来開拓力に優れた人材を育成—」として体系化された。そしてこの「MEIJI8000」により、明治大学は2014年に文部科学省「スーパーグローバル大学」に選定された。

「本学の毎年の卒業生数は、学部・大学院を合わせておよそ8000人です。この8000人全員について、主体的に考え、決断し、活動し、教養とコミュニケーション力を磨き、未来を切り拓く力を身につけてもらおうというのが、『MEIJI8000』の基本理念です。毎年8000名の学生を、『未来開拓力に優れた人材』に育てあげて社会に送り出そうとの、本学の決意そのものといってもよいでしょう」（勝教授）

「MEIJI8000」では、世界との活発な交流と、アクティブラーニング（主体的学び）が重要な柱となる。その実現のため、留学、ジョイント・デグリー、インターンシップなど、100を数える国際プログラムを開設。留学生の受け入れ促進、海外拠点や協定校との国際ネットワークの構築、国際会議等への学生の参加など、内外キャンパスをすべてグローバル・キャンパスとしていく。

なかでも留学は、体験を通して世界を知る機会として奨励しており、全学で年間およそ1000人が長期短期を合わせて留学を経験している。短期の語学研修、語学研修にアカデミックプログラムを合わせたプログラム、インターンシップ、国連ボランティア、



国際交流担当副学長、国際連携本部長を務める勝悦子教授

ダブルデグリーを含めた1年以上の長期留学まで、留学の行き先も形態も多様だ。勝教授によると、10年後には現在の4倍にあたる4000人の日本人学生を海外に送り出し、同じく4000人の海外留学生を受け入れる計画だという。

「毎年4000人の学生を海外に送り出すと、4年間で1万6000人になります。明治大学には3万2000人の学生がいますので、今から10年後には2人に1人の学生が、何らかの形で海外留学を経験することになるでしょう。」

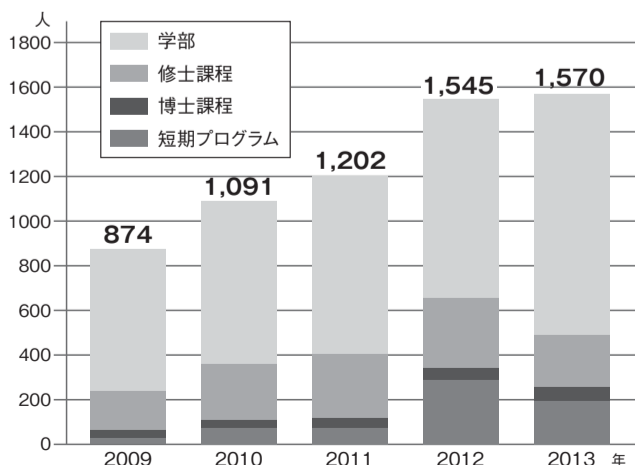
海外のトップスクールへ留学すると、単位を取ることがいかに難しいかが分かります。毎日山のような課題をこなし、能動的に授業に参加して、夢中で勉強しなくてはなりません。そうした体験を経て帰ってきた学生は、勉学に対する意欲やポテンシャルが、明らかに向上します。さらにその彼らの存在が、他の学生や教師にもよい意味での刺激となっています」

留学の意義や、留学をめぐるさまざまな可能性について早い段階で知ってもらおうと、1年の前期には「留学のすすめ」という授業を展開。学外からも多様な講師を招くほか、留学を実現した学生や卒業生の話を聞く機会も設けている。「留学に必要な成績や英語力の条件が入学した段階で分かれば、計画も立てやすく、真剣に勉学に取り組むインセンティブにもなる」と、勝教授は語っている。

「一般教養」の力を得て
世界を理解し、日本を発信

一方、明治大学では現在、年間およそ1600人の留学生を受け入れているが、10年後にはこれまた、4000人規模にまで

留学生受け入れ数の推移



留学生の会話の輪に勝教授が加わる。



英語コースの授業。学生たちの表情が印象的だ。



日本語短期研修プログラムで日本文化を体験。



国際日本学部の学生たちが集合。

拡大されることになる。異文化理解や英語力向上の機会、キャンパス内でもますます広がっていくだろう。

その一例として、英語で行う授業もすでに約600科目で導入されている。Law in JapanやCool Japanといった夏の短期集中講座をはじめ、社会科学、経済、法学などの分野で英語の授業が始まっている。理工学研究科機械工学専攻の学生は韓国の大学と英語でワークショップを行っている。

さらに基礎的な英語力の底上げを図るべく、2013年度からは、政治経済学部を中心とした全学部の学生を対象に、「実践的英語力強化プログラム」を展開。留学を視野に、IELTSなど英語運用力テストの対策プログラムも充実させている。加えて政治経済学部では、コミュニケーション能力の向上に

重点を置いた「英語実践力特別強化プログラムACE (Advanced Communicative English)」が成果を上げており、課外プログラムとして導入したオンライン英会話も学生に好評だ。

多様な英語プログラムにとどまらず、明治大学のグローバル人材育成教育の特色は、一般教養を重視する点にもある。国際連携本部長の立場から、あらためて勝教授に話を聞いた。「本学では2008年に、国際化の流れのひとつとして、『国際日本学部』を開設しました。海外に出ると、日本人でありながら、自分がいかに日本を知らないかに気づかされます。日本の歴史もよく知らない、日本の文化や日本が抱える課題についてもよく知らない。これでは国際社会で自信を持って生きていくことはできません。本学では、日本に関する一

般教養をしっかりと学ぶと同時に、日本を国際的に発信していきます。

日本のことと同様、私たちは世界についても、もっと知らなくてはなりません。広く国際社会を活動の場としていくこれからの日本人にとって、世界の人々と共通する素養を身につけておくことは、相互理解やコミュニケーションの観点においても不可欠です。歴史、宗教、社会学、音楽、文学、芸術、また自然科学から数学まで、広域な基礎的な知識を修めておくことも必要でしょう」

教養という点では、誰もが直面するグローバルイシュー（地球規模の問題）も、国際教養の範ちゅうだ。海外の大学との連携プログラムでもこうした課題を取り上げ、国際教養を軸に展開されるという。

「一般教養の科目は、1、2年生にかけて

集中的に学びます。幅広い分野をまんべんなく学ぶことは、4年間の大学生活を俯瞰し、専門分野を考えるうえでも必ず役に立つでしょう。日本人としてまた国際人としての教養を深め、それをベースに主体的に高い専門性を究めていく。そうした学生を本学では育てていきたいと考えています」

明治大学

1881年、明治法律学校として創立。学部の増設にともない総合大学となった現在も、創立当時の「権利自由、独立自治」という建学の精神を基軸に、社会に貢献する人材を輩出している。昨年は、第4のキャンパスが東京・中野に開校した。

世界基準のビジネス英語能力テスト

BULATS

The Business Language Testing Service

日本でも約400の企業・団体が採用!

- 三井物産 ●住友商事 ●三菱重工業 ●商船三井 ●メリルリンチ
- 日立製作所 ●ユニリーバ・ジャパン ●エーザイ ●日本電気 ●富士通
- 伊藤忠テクノソリューションズ ●ヒルトンホテル ●旭硝子 ●横河電機
- リクルートホールディングス ●毎日コミュニケーションズ ●日産ディーゼル工業
- 長瀬産業 ●オリジン電気 ●サントリー ●PFU ●富士通オートメーション
- 富士通ラーニングメディア ●ヤンマー ●シェンコーポレーションジャパン ●JAC Japan
- カネカ ●ブリティッシュ・カウンシル ●マースク ●佐川グローバルロジスティクス
- 日本テキサス・インスツルメンツ ●マーレエンジンコンポーネンツジャパン
- ニフコ ●ユーロクリア・バンク ●ネスレ日本 ●全日空商事
- 大日本住友製薬 ●バイオ・ラッドラボラトリーズ ●ジャパンフード
- アマゾンジャパン ●アイ・アム ●早稲田大学理工学部 ●広島大学 ●熊本大学 ●京都大学 ●神戸大学ESS 他多数

世界と繋がるために

Are you sure your message is getting through?

BULATS
Fast, reliable,
and global

Standard Test

リスニング/リーディング/語彙問題

¥ 2,900 (税込み)

Computer Test

リスニング/リーディング/語彙問題

¥ 2,900 (税込み)

Speaking Test

ネイティブ試験官との対面式

¥ 6,900 (税込み)

Writing Test

記述式

¥ 3,900 (税込み)

詳細は

<http://www.eiken.or.jp/bulats/>

お問い合わせは

Tel : 03-3266-6366 Email : stepbulats@eiken.or.jp



UNIVERSITY of CAMBRIDGE
ESOL Examinations

BULATS(ブラッツ)は、公益財団法人日本英語検定協会と英国ケンブリッジ大学の語学試験機関であるケンブリッジ英語検定機構が共同開発したテストサービスです。